

研究 成 果 報 告 書

(まるやま ゆきえ)

氏 名 丸山 幸恵

所 属 上越市立高志小学校

平成 22 年 3 月 修了 生活・健康系コース学校ヘルスケア

○研究テーマ

児童の健康状態を把握する情報共有の在り方ー保健室情報に着目してー

○研究の概要及び成果

児童が抱える問題は、学校内の集団あるいは保健室での指導等だけでは解決できない複雑な問題が増加していて、外部機関との連携を要する場合も少なくない。児童の身体・心の情報、生活の様子、または保護者の様子や話等、児童の抱える問題を複眼的に捉えることにつながる情報が保健室でキャッチできることは多い。問題解決や支援を目指すときに、これまでは「保健室で気がついたこと、気になったこと」として羅列して校内の生徒指導部会に挙げるが多かった。しかし問題の内容によっては、迅速な対応が必要なものもある。そこで、それまでのかかわってきた事例を基に、早期に問題を発見しうる指標を以下のように列挙し情報の整理を試みた。外部機関（児童相談所、市教育委員会、民生委員、市福祉課、市子ども課、学校医等）との連携から必要とされた内容についても指標に加えることにした。①健康診断結果【特に、発育状況、歯科検診結果・受診治療状況】②健康観察結果【遅刻、欠席の数と頻度、健康状態の訴え】③保健室来室時の情報【来室時間・回数、来室理由、表情、あざ・けがの有無、食事の摂取状況、清潔状態、来室中の様子：落ち着かない、はしゃぐ、泣く、いつもと違う様子等、話し方、訴えは一貫しているか、一人で来室しているか複数か】④保健室来室時の保護者の様子【相談内容、子どもに対する態度、保健室への要望、表情・様子：疲れている感じ、落ち着かない、視線・言動の不自然さ、一方的に話し過ぎることはないか、育児への困り感の有無、育児の支援者の有無、周囲に育児について相談できる人がいるか】⑤保健室来室時親子関係の様子【不自然さ、不安定さはないか、過度な依存はないか】⑥保護者は学校や保健室に来ることを拒まないか⑦校内巡視の際の観察結果【授業に集中しているか、表情、周囲の児童とのかかわり】。これらの指標による情報から心配される児童について、学級担任と情報共有した。学級担任からは主に、【登下校・登校直後や授業中・休み時間・給食の時の様子、家庭からの連絡帳の記載や反応、友人関係、担任のそばにいつもいたがるか等】の情報を得た。保健室・学級間で対応可能だったものもあるが、保健室で得た情報から迅速な対応が必要と判断されたものは、生徒指導部や管理職に報告し対応をとった。保健室から情報提供し対応をとった事例の中では、③の項目から「何かおかしい」と感じ早期に察知したものが最も多かった。児童の情報を収集・整理していく指標として「保健室来室時の情報」が有効であり、保健室にいる養護教諭が対応時にそれらを認識してかかわることがその前提となることの必要性が見えた。単に「保健室で気になったこと」として情報を羅列し情報提供しても一回のこととして終わることも考えらよう。一定の指標を持ちながら保健室で児童に見える事実を集積し、定期的に校内で情報交換していくことの重要性を感じた。今回は、個人情報管理の点からデータベース化には問題があり実現できなかったが、校内の児童理解の1つのシステムとして保健室で得られる情報活用の可能性を感じた。また、外部機関との連携から学校（保健室）からの情報として必要なことを確認し指標に加えることで、児童と関わる際に意図して情報が収集できた。今後は、指標を活用した情報収集・整理を継続しながら学校現場でさらに活用できるシステムの構築を図りたい。